

山中靜逸 （號） 漢詩人。文政五年九月、一日、河國碧海郡東浦生乳、
明治十八年五月、二十一日歿（八二一全）。諱獻、字子文、幼名松壽、
通稱春助、俊助、七左衛門・帶刀。別號「水間人、信天、信天翁、對
嵐山房。篠崎小竹、齋藤拙堂等、公學ぶ。幕末、深川屋敷、梅田雲濱、頼
二樹等、公交はり、國事を奔走。のち岩倉具視の知遇を得、左右に侍して
議に參劃。維新後、徵士、内國事務局權判事、桃生縣權知事、石谷縣知
事歴任。また伏見・開院、北白川各宮家の家令を務めた。明治六年京
都嵐山の退隱。十年、天皇行幸の折その謁を賜はつたことは有名。書
畫にも堪能であつた。

著書 『日記』（明治十二年春・對嵐山房）等。